

吉野川

よしのがわ

万葉集を訪ねて 第12回

奈良大学教授 上野 誠



はじめて吉野を訪れた多くの人びとが、
口にする言葉がある。「奈良県という県の
南は、山国なのですね。そして、奈良県にも
こんな大きな川が流れているなんて、吃驚
しました」。たしかに吉野は、いわゆるクン
ナカ(奈良平野)から見れば別天地だ。

日本の古代国家の歴史は、「壬申の乱」と
いう内乱によって、大きく展開することに
なる。天智天皇の崩御後、皇位継承争いに
打ち勝つて即位をした天武天皇は、一時期
吉野に隠棲していたのである。そのため、
吉野は天武天皇にとって重要な場所になっ
たのである。時に西暦六七二年のことであ
る。その天武天皇が、天武天皇八年(六七
九)五月の行幸の折に作った歌がある。

天皇、吉野宮に幸せる時の御製歌
よき人の よしとよく見て
よしと言ひし 吉野よく見よ
(左注省略)

見れど飽かぬ 吉野の川の
常滑の 絶ゆることなく
またかへり見む
(巻の二七)

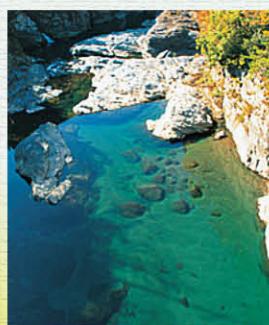
この天武天皇の呪文のような歌に答えて
吉野をよく見た歌が、「吉野宮に幸せる
時に、柿本人麻呂が作る歌」であり、吉
野の風土を讃める歌となっている。その
反歌が、次の歌である。

約」が行われている。六皇子の盟約とは、
天武天皇ゆかりの六人の皇子が、天皇と
皇后に忠誠を誓ったもので、重要な政治的
役割をもっていた。その盟約を吉野で行つたのは、壬申の乱と関わりがあることはい
うまでもない。「吉野をよく見よ」という言葉の裏には、あの戦乱のことを忘れるな、
との天武天皇の思いが込められているはずである。

この天武天皇の呪文のような歌に答えて
吉野をよく見た歌が、「吉野宮に幸せる
時に、柿本人麻呂が作る歌」であり、吉
野の風土を讃める歌となっている。その
反歌が、次の歌である。

吉野宮滝

4月の吉野と言えば桜が有名だが、吉野山へ参詣・遊山するようになつたのは平安時代からで、それより以前は、吉野へ行くといえば、吉野川上流にある「宮滝」がその目的地と決まつていた。吉野宮があつた場所である。天武、持統、聖武天皇などがたびたび訪れたといわれる。縁豊かな自然と大岩が立ち並ぶ景色は壮観で、そこに立つてみると、昔の人が同じ場に宮をくり返し建てたことがうなづける。



(行き方)近鉄大和上市駅から奈良交通バス「杉の湯行」で「宮滝」下車、南へ約200m。

万葉集の舞台へ

リニューアルされた奈良県のウォーキングポータルサイト「歩く・なら」で万葉集の舞台を訪ねよう！ [歩く・なら] [検索]